

002 名細の由来

現在、下広谷は川越市に所属している。それ以前は名細村に所属していた。昭和30年の九か村合併により、名細村が川越市に併合されたことにより、名細という地名は失われた。わずかに、中学校、小学校、保育園などにその呼称が残るだけである。

名細という言葉は簡単な漢字であるが、それを正しく読める人は地元民しかいないだろう。その意味や由来を説明するとなると、地元民さえあやしくなる。一体、名細という言葉はどこから来ているのか？

平成8年発行の「名細郷土誌」に、その由来が掲載されている。それによると、二つの説がある。一つは、名細は三芳野（古来のこの地の地名）の枕詞であり、それを採用したという説。万葉集柿本人麻呂の「名細き 稲見の海のおきつ波 千重にかくりぬ山跡島根は」や、万葉集の長歌に「・・・名ぐわしき吉野の山は影面の・・・」という古歌がある。

もう一つの説は、「美しい土地」を意味するというもの。「くわしい」は古くは「美しい」という意味があり、「な」は高句麗語で土地を表す言葉であるという。いずれにせよ、古い言葉から来ているようだ。